

2024 年 1 月 10 日

2023 年度海外留学実績報告書

留学者	留学先	期間	留学課題
デザイン工学部 建築・環境 デザイン学科 教授 松田 奈緒子	フランス フランス国立建築大学 パリ・ラ・ヴィレット 校	2023 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 9 月 10 日 (163 日間)	短海外留学（研究課題：自己の効果的・肯定的変化を促すインテリアデザイン手法の構築）
2023 年 4 月 1 日より 9 月 10 日までの約 5 か月間、短期留学制度を利用して、研究課題「自己の効果的・肯定的変化を促すインテリアデザイン手法の構築」を遂行することを主目的に、フランス共和国のパリ・ラ・ヴィレット・建築大学（ENSAPLV）に滞在しました。ENSAPLV では研究しやすい環境を整えていただいたばかりでなく、調査対象者も紹介いただく等、多大な協力のもと研究することができました。また他の研究者との議論の場を積極的に設けていただき、研究課題に対する新たな視点を持つ貴重な機会となりました。 また、パリ市内、パリ郊外、地方都市に住む 9 名の方に実態調査にご協力いただき、新たな知見を得られたことは大きな成果となりました。さらに、建築家やインテリアデザイナーによりによりデザインされた住宅・インテリアや、建築家や芸術家が実際に暮らし、内装を手掛け、アトリエとして使用していたアパルトマン等を調査・見学し、日本では得ることのできない数々の貴重な資料を入手することができました。これらの成果の一部は、2024 年度に専門誌への論文投稿を予定しています。			

2024 年 6 月 17 日

2023 年度海外留学実績報告書

留学者	留学先	期間	留学課題
経済学部 経済学科 教授 加藤 道也	イギリス ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS)	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日 (366 日間)	長期海外留学 (植民地 官僚の大英帝国認識 に関する研究)
2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの 1 年間、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院日本研究センター (Japan Research Centre, SOAS University of London) で在外研究の機会を得た。研究テーマは「植民地官僚の大英帝国認識に関する研究」である。 SOAS 図書館を中心に大英帝国の植民地統治関係者に関する貴重な資料・文献等の調査に従事した。また、日本研究センターの定期セミナーに積極的に参加し、様々な分野の日本研究者と積極的に意見交換や交流を行った。 主要な成果として、日本研究センター定期レクチャーシリーズにおいて、2024 年 1 月 24 日 (水)、「Japanese Colonial Bureaucrats' Perception of Colonial Rule」(於 SOAS Khalili Lecture Theatre) のテーマで在外研究の集大成として研究報告を行い、多くの参加者と議論を行い、多数の有益なコメントを得る事ができた。 貴重な在外研究の機会を与えていただいたことに感謝したい。			

2024 年 11 月 12 日

2023 年度海外留学実績報告書

留学者	留学先	期間	留学課題
経営学部 商学科 教授 澤登 千恵	イギリス Northumbria University	2023 年 9 月 1 日～ 2024 年 8 月 31 日 (352 日間) ※一時帰国期間：2024 年 3 月 31 日～2024 年 4 月 13 日 (14 日間) を除く	長期海外留学(19 世紀 イギリスの鉄道およ びガスの会計実務と 会計制度の研究)
2023 年 9 月 1 日から 2024 年 8 月 31 日まで、イギリスのノーザンブリア大学に客員 研究員として留学して参りました。在外留学を引き受けてくださった Bernardo Batiz- Lazo 教授, 同大学教授の John William 教授, 学会報告と論文投稿でお世話になった AHR 編集者の Cheryl MacWatters 教授を始め, 多くの先生方から貴重なご意見, サポートを いただき, 研究を進めることができました。この経験を活かし, 今後も研究に励んで参り ます。在外研究中の研究業績および学会参加は以下の通りです。 学会報告 (セミナー報告を含む) ● 2023 年 10 月 20 日 INTERNATIONAL BUSINESS DEVELOPMENT SERIES (於 ノーザンブリア大学) ‘Accounting Historical Study Using Text mining and Data mining.’原稿投稿済み。 ● 2024 年 3 月 9 日 The 2nd Accounting History Research Workshop (於 東京首都大 学) 「会計変化に対する資本勘定閉鎖問題の影響: テキストマイニングを含むデー タマイニングを活用した 19 世紀前半鉄道会社の報告書の再検討」。 ● 2024 年 6 月 13 日 (から 14 日) Accounting History Review 2024 (於 Edge Hill University) ‘Attempt to adopt data mining in accounting historical research: Impact of capital account closure problem on accounting changes in British railway companies in the first half of nineteenth century.’ 掲載論文 ● 「19 世紀前半イギリス鉄道会社の監査実務の変化ーGWR における外部の職業会計 士採用までの監査実務を中心にー」『産業経理』2024 年第 1 号。 学会参加 ● 2024 年 6 月 27 日から 29 日 The Economic and Business History Society (於 York St John University)			